

# ドクター + 教えて

## 子どもの頭部外傷

救急科部長兼救命救急センター長 間遠 文貴



子どもは、とかく頭の怪が多いです。遊んでいるときに転んだり、高い所から落ちたりして怪我をします。

また、歩き始めの乳児は、身体の特徴として、頭が大きいので転倒しやすいです。幸いなことに、救急外来へ頭部外傷で受診される小児の多くは軽傷で、特に検査や処置なく帰宅する場合があります。

頭部CTを撮影する場合もありますが、泣いて暴れる子どもを撮影することは困難です。鎮静剤などを使用して撮影する手段もありますが、鎮静自体にも危険を伴います。また、撮影時にはX線被曝を避けられません。頭部CT撮影は、どうしても必要なときに限り行います。

では、頭部外傷で受診し、帰宅した後、どのような症状に注意が必要なのでしょうか。

次のような症状が見られないか注視してください。

- ・いつもは元気に遊ぶ子どもが遊ばない
- ・ぐずついで機嫌が良くならない
- ・普段通りの会話ができない
- ・ぐったりして吐いてしまう

症状は多彩ですが「いつもと違う」場合、速やかに病院を受診してください。また、少なくとも6〜12時間は家族による十分な見守りをお願いします。

ただ、最も重要なことは「可能な限り外傷を避ける」ということです。まずは外傷を起すこしにくい環境整備が必要です。転倒しやすい段差、落下しやすい家具やベッド、落下物を乗せたテーブルなどを整備し、外傷の危険を減らす予防することが大切です。

## 3月11日は家庭防災の日

今やろう、災害から身を守る「減災」対策！

◎地域づくり応援課

☎0538-3714751  
FAX 0538-3212353

磐田市自治会連合会では、「自らの命は自ら守る」「家族の命は家族が守る」という自助の意識を高めるため、3月11日を「家庭防災の日」と定めています。意識に勝る防災はありません。家庭防災の日には、自分自身や大切な人を守るために、全戸配布されるチェックシートや家庭にある磐田市防災ファールを活用し、家族で話し合いながら次のことを確認しましょう。

- 身の守り方を考えよう
- わが家の防災備蓄品をチェックしよう
- わが家の危険診断をしよう



大切な人を守るために

まずは自分の命を守りましょう

地震が起きたら：

- 姿勢を低く！
- 頭・体を守って！
- 揺れが収まるまで動かない！



家族で防災・減災について話し合い行動してみましょう!

3月11日は  
**家庭防災の日**

くらしの  
**田**  
情報